

科目名	倫理学	科目分類	<input type="checkbox"/> 専門科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 総合科目群		
			全学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	
			学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Ethics	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
		開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
ふりがな	ぜにや あきお	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	銭谷 秋生	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	善とは何であり正義にかなった社会とはどのような社会なのかについての倫理学の探究の歴史を理解し、それを踏まえて現代社会の倫理的諸問題について自ら考察できるようになる。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 倫理学が問題とする善や正義についての多様な見方を理解できる。 2. それらを踏まえて、現代において生じている倫理的諸問題を見出し、それらを論理的に考察できる。				
授業概要	「単に生きるのではなく、よく生きることが大切である」というソクラテスの問題提起とともに倫理学は始まりました。しかし「善」とは何であり、それは「正義」とどのように関連するのか。この講義は、倫理学の原初の間いを受け止めるところから始め、その後の主だった展開を追跡し、現代に生じてきている倫理的諸問題と取り組むための足場を確保するところまで進みます。				
授業計画					
第1回	イントロダクション：なぜ善や正義について考えなくてはならないのか				
第2回	倫理学の原初の間い：ソクラテスの言う「魂の気遣い」とは何を問題とするものだったのか				
第3回	ソクラテス VS. ソフィストたち：善とは何かという問いと、善らしく見せればそれでいいとする論理の対立				
第4回	アリストテレスの応答：刻まれぬ法としての正義				
第5回	功利主義（その1）：最大多数の最大幸福が善であるとする説（ベンサム論理）				
第6回	功利主義（その2）：功利主義の検討（「最大幸福の実現」という準拠点で十分か）				
第7回	合理主義的倫理学（その1）：幸福に値することとしての道徳（カントの倫理学）				
第8回	合理主義的倫理学（その2）：「目的の国」と世界市民				
第9回	現代の正義論（その1）：ロールズによる正義の二原理の導出				
第10回	現代の正義論（その2）：ロールズの正義論とリベラリズム				
第11回	現代の正義論（その3）：ノージックの正義論（自己所有権論）				
第12回	現代の正義論（その4）：ノージックとリバタリアニズム				
第13回	人権の基礎（その1）：ゲワースの類的権利論				
第14回	人権の基礎（その2）：類的権利論と支援国家				
第15回	Why be moral?：なぜ道徳的でなければならないのか				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 毎回、次の回のプリントを配布しますから、目を通してください。その際、分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1.5時間程度) 2. 日ごろから新聞に目を通し、現在どのような倫理的問題が生じているのかを知ってください。(0.5時間程度)				
履修条件 受講のルール	授業時間中に学生を指名して授業内容について意見を求めますから、指名された学生は必ず自分の考えを述べてください。また、授業の最後に質問票を配りますから、それに質問を書き込んでください。				
テキスト	特定の教科書は使いません。毎回、プリントを配布して、それに沿って講義を進めます。				
参考文献・資料	参考文献として、以下の二冊を勧めます。 『入門講義 倫理学の視座』新田孝彦、世界思想社(2000) 『現代倫理学入門』加藤尚武、講談社学術文庫(1997)				

成績評価の方法	質問票への記入内容(20%)と定期試験の解答(80%)で評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	隔週水曜日 13:00~14:30
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	皆さんはこれまで、「この社会は本当に正義にかなった社会なのだろうか?」といった問いに襲われた経験がきっとあると思います。倫理学は、そのような問いと真正面から向かい合う学問です。一緒にこのような問題を徹底的に考えるという知的冒険をしてみましょう。